大山ダムの防災操作

～梅雨前線による降雨において河川水位上昇を緩和～

【梅雨前線による出水】

筑後川水系赤石川の大山ダム（大分県日田市）の流域では、線状降水帯による猛烈な降雨により、７月５日１７時から８日４時までのダム流域平均の※1総雨量は７０４㎜となり、特に、７日２２時から２３時までの時間雨量は６７㎜を記録しました。

この降雨により、平成２５年（2013 年）の管理開始（7 年経過）からの既往最大となる毎秒約２８３立方メートルのダム流入量を記録しました。

（※１　総雨量は５日１７時から８日４時までの値）

【大山ダムで最大毎秒約１７４立方メートルの防災操作を実施】

この出水に対し大山ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、※2 約３０７万立方メートルをダム湖に貯めて、川の水を減量させました。これは PayPay ドーム約１．７杯分になります。（添付資料２参照）。最も多くダムに水が流れ込んだ時（毎秒約２８３立方メートル）に対し、ダムから流している水の量は毎秒１０９立方メートルでした（低減量毎秒約１７４立方メートル、低減率約６１％）。

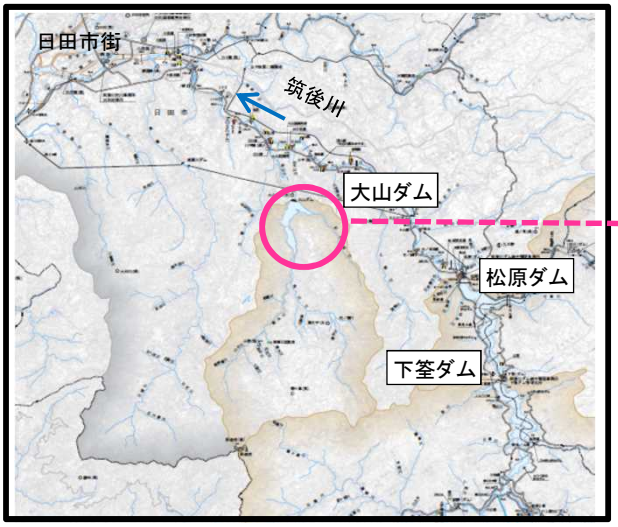
（※２　貯留量は５日１７時から８日５時までの値）

【大山ダムの防災操作による下流河川の水位低減効果】

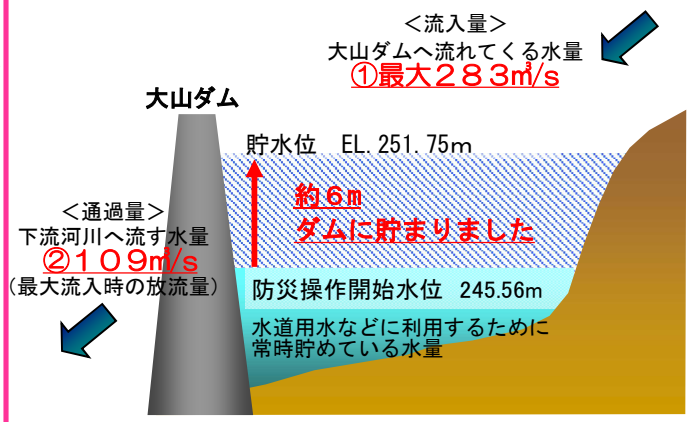
今回の出水における防災操作により、下流河川の水位をダムがない場合に比べて低下させることができました。

資料1

大山ダムの操作状況図



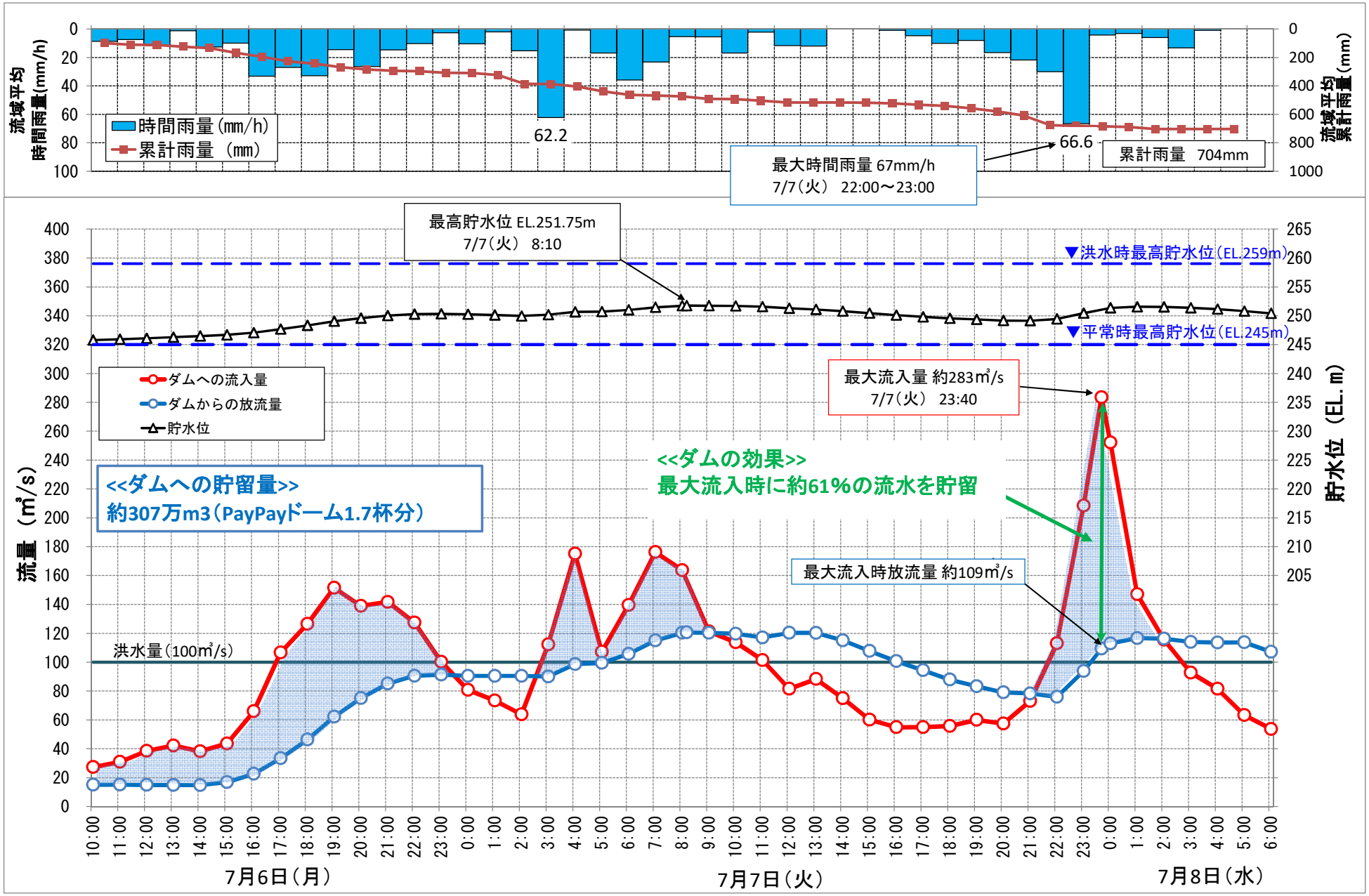
【大山ダム最大流入時：7月7日、23時40分時点】



ダムへ流れてくる水量の
約6割低減させて流しました。
※約6割≒１－（②÷①）

値は暫定値のため、確定値ではありません

防災操作による大山ダム貯留状況

大山ダム洪水調節図　令和２年７月５日～８日

資料2